

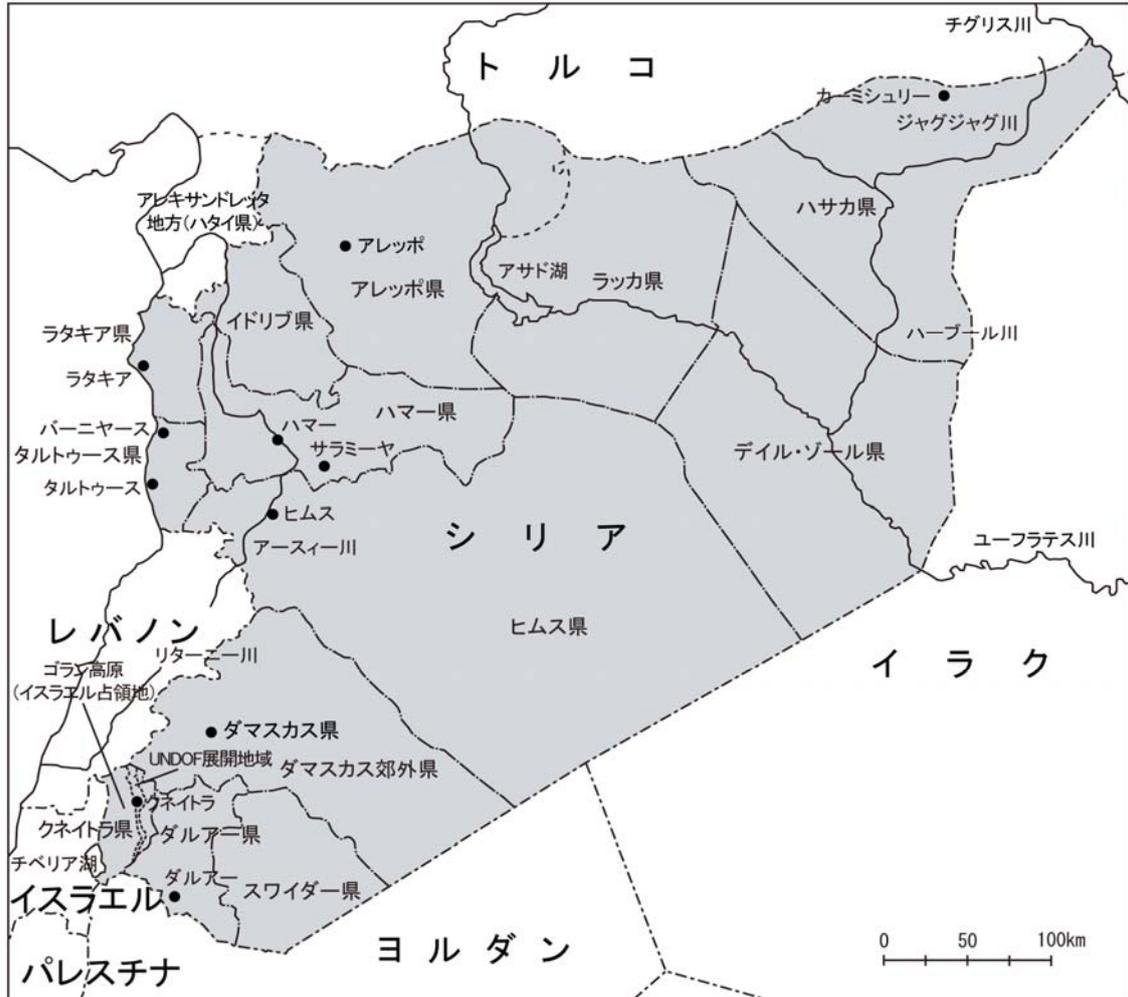
「中東民主化 シリア」

2011年4月11日 13:30~14:30 日本記者クラブ 10階ホール

青山弘之（東京外国語大学 aljabal@tufs.ac.jp）

1. シリアに関する基本情報

1-1. 地図



1-2. 政治体制に関して

- 一党独裁ではない
 - 連立与党：アラブ社会主義バアス党が指導する進歩国民戦線（シリア共産党など）
 - ただし
 - 憲法第8条がバアス党を「国家と社会を指導する政党」と規定
 - 1962年12月発動の非常事態令、1963年3月発動の戒厳令に基づく言論統制：ムハーバラート
 - 野党は存在しない——政党法がないため公認できない
- 個人独裁ではない

- バッシヤール・アサド現大統領を「絶対的指導者」たらしめる政治構造
- 「権力の二層構造」
 - 第一層：内閣、人民議会、司法など
 - 第二層：ムハーバラート、軍、「ビジネスマン」 → シリアを実際に支配
 - 二つの層の結節点としてのバアス党、そしてアサド大統領

1-3. アサド政権による改革の試み

- アサド大統領就任（2000年）以来、改革の意思を明示
- バアス党第10回シリア地域大会（党大会、2005年）で具体案を提示
 - 戒厳令・非常事態令の解除
 - 政党法
 - クルド問題（「外国人」「戸籍未登録者」のクルド人への国籍付与・補償に関する問題）の解決

2. シリアの現状——民衆デモ、アサド政権の反応——

2-1. 民衆デモ

- 2月から Facebook でデモ参加の呼びかけ：3月15日からダルアー、ラタキア、バーニヤース、ヒムス、ハサカなどでデモ
- 誰がデモに関与しているのか？
 - デモの呼びかけ人：外国に滞在？
 - デモを煽る部外者：「いいね！」をクリックする無思慮な外国人など
 - デモ参加者
 - チュニジア、エジプトの政変のデモンストレーション効果を受けた無思慮な若者
 - 犠牲者の家族
 - 阻害され、犠牲者とその家族に同情する市民
 - 市民の要求を具体化しようとする反体制活動家（市民とかけ離れた暮らし）
 - デモに便乗するマフィア／悪党（シャビーハ）——アサド政権の主張
 - イスラエルのスパイ——アサド政権の主張
- なぜデモが発生・拡大したのか？
 - ダルアー：子供の落書き→治安当局による容赦ない逮捕→家族の怒り→デモ→犠牲者発生→犠牲者家族の怒り・・・
 - ラタキアなど：ダルアーでのデモ激化への同情→デモ→犠牲者発生→犠牲者家族の怒り・・・
- デモの目的——時間の経過とともに具体性を得る／そもそも目的は曖昧
 - 小規模・散発的デモ：中身なし！——「アッラー、シリア、自由のみ」
 - ダルアー：子供の釈放→デモ弾圧の責任者処罰→政治的要求（戒厳令解除、政党法制定、憲法改正など）
 - ラタキアなど：デモ弾圧の責任者処罰→政治的要求
 - ハサカなど：デモ弾圧の責任者処罰→政治的要求（クルド問題の解決）

2-2. アサド政権の対応

- 「レッド・ライン」の設定
 - アサド政権打倒——× 容赦ない弾圧

- 改革——○ 100 万人集会などを行い、アサド政権下での改革を国民に受け入れさせようする。
- 改革案の提示——アサド政権発足当初から準備
 - 戒厳令・非常事態令解除
 - 米国、英国、フランスの法律をもとに治安維持法を準備
 - 通常法で言論統制を行う意図
 - 政党法
 - 体制の存在を否定しない進歩国民戦線以外の政治エリートへの限定的な政治参加を準備
 - 対抗エリートの無力を国民の前に曝す意図
 - 憲法改正
 - 態度を明示していない
 - クルド問題
 - 「外国人」登録されているクルド人への国籍付与
 - 戸籍未登録者への国籍付与は行わない。補償についても曖昧
 - 責任者の処罰
 - アトリー内閣総辞職、ダルアー県知事、ヒムス県知事解任
 - ムハーバラートの高官は今のところおとがめなし

3. まとめ

3-1. 国際社会の反応

- 米国：介入に消極的
 - 親米アラブ諸国（エジプト、サウジアラビア）：自国の問題で手一杯
 - イラン、トルコ、ロシア：アサド政権による改革を支持
- ↓
- 圧倒的な物理的暴力を誇り、ムハーバラート・軍に足並みの乱れないアサド政権はデモ弾圧を躊躇しない
 - デモ参加者は外国に支援を決して求めない（シリア国民の心性）

3-2. アサド政権の今後の動き（改革をめぐる）

- これまで：「計画するが実施せず」
- 今後：「決定するが発効せず」